

第10回定時総会開催

新世代PCa工業会 PCa化率20%実現を



篠田会長

新世代PCa工業会(会長＝篠田佳男氏)は9月25日、ホテルニューオータニ長岡(新潟県長岡市)で第10回定時総会を開催した。総会は同地で開催中の第4回コンクリート技術大会(長岡)に合わせて行われた。総会では平成25年度事業報告・収支決算報告、平成26年度事業計画案・予算案が原案通り可決承認された。

13%程度にとどまっている。

しかし3・11以降、我々を取り巻く環境は激変しており、被災地の復興復興や国土強靱化などコンクリートに対する見方も大きく変わってきている。2020年の東京オリンピック開催も決まった。社会インフラに不可欠なコンクリート構造物をどう構築していくのかということの一方で、国交省は昨年を『社会資本メンテナンス元年』と位置付け、社会資本の維持管理に大きく舵を切った。このように新設・復旧復興・維持管理という構図の中で業態がずいぶん変わってきたと思う」と業界を概観した。また、今後の展望について篠田会長は「前回の東京オリンピックでは、オリンピック開催に向け新幹線、高速道路などの集

●プレキャスト比率向上の好機到来

総会の冒頭挨拶した篠田会長は「新世代PCa工業会も設立から10年目を迎えた。工業会発足当時を振り返ると建設部門が右肩下がりの厳しい状況だった。当工業会は、建設投資が減少する中で生産性の向上を図るため、耐久性が高く合理化施工が可能なプレキャスト技術の開発と普及を図る目的で設立したが、日本のプレキャスト比率は依然として

中投資が終わった昭和39年には建設部門が一時停滞したと先輩に聞かされた。2020年の東京オリンピックや震災復旧・復興需要がどこまで続くのか非常に気掛かりだ。全体として需要はオーバーヒート気味で労働者不足が大きな問題となっており、急速施工・省人化施工の観点からプレキャストにはフォロ

カーは地場に密着した産業でコンクリート技術も持っている。これからは、ただ単に製品を製造していれば良いということではなく、自分達で社会インフラを守り安全安心な社会を築いていくという観点も必要だ」と指摘した。

一方、工業会の活動については「首都直下地震や南海トラフ地震などの巨大地震が想定される中、当工業会も耐震補強分野を一つのターゲットとしているが、やるべきことは多い。当工業会が先鞭を付けた結果、業界全体が上手く行



総会は17社19名が出席した

また平成20年の外装材JIS改正で同社の主力製品がJIS規格から外れたことなどにより、サイディングボード事業を中心に業績が大幅に悪化。固定費の削減や生産性向上を目指した収益改善対策、ニッチ製品を中心とした販売活動などに注力したが、サイディングボード事業の抜本的な損益改善の目的が立たないとして解散を決めた。これに伴い、宇部興産は平成27年3月期連結決算で43億円の特損失を計上する。

連結子会社ウベボード解散へ

宇部興産

宇部興産(本社、山口県宇部市、社長＝竹下道夫氏)は9月30日、連結子会社のウベボード(本社、山口県宇部市、社長＝森幹雄氏)を解散すると発表した。

ウベボードは昭和25年、宇部スレート工業として設立。建物の壁や屋根などに使う波板製品を主力に製造を行ってきた。昭和61年にはサイディングボード事業に進出し、翌年ウベボードに社名を変更。フロアや建装材まで事業を拡大したがその後、建造物の着工減少や競争激化などにより、販売数量の伸び悩みが続いた。

また平成20年の外装材JIS改正で同社の主力製品がJIS規格から外れたことなどにより、サイディングボード事業を中心に業績が大幅に悪化。固定費の削減や生産性向上を目指した収益改善対策、ニッチ製品を中心とした販売活動などに注力したが、サイディングボード事業の抜本的な損益改善の目的が立たないとして解散を決めた。これに伴い、宇部興産は平成27年3月期連結決算で43億円の特損失を計上する。

なお、波板事業などサイディングボード以外の採算性が見込まれる事業は、新設した100%子会

つているというような状況を目指すにはこの一、二年が非常に重要だ。当工業会が本当の意味で強い組織となるためこの一年を濃密な時間にしていかななくてはいけないと痛切に感じている」と述べ、会員社の協力を要請した。

総会では、平成25年度事業報告・収支決算報告、平成26年度事業計画案・予算案が原案通り可決承認された。今期はステンレス鉄筋を補強材とした高耐久埋設型枠・SDPフォームの壁高欄や耐震補強工法への適用など、同工法の実用化・普及拡大を事業計画の中心に据えて活動を進める計画。ホームページの全面改訂、技術資料作成などの広報活動を通じ工業会取扱製品の普及拡大と新規会員の加入も図る。またSUS鉄筋を補強材とした防風版の実用化に向け新たにWG(ワーキンググループ)を立ち上げ実用化にむけた活動を本格化させる。その他にも、新規商品開発に向けテーマの選定とWGの立ち上げなどを検討する方針。

壁高欄として施工するもので、内部支保工のアンカーをトラス状に加工した部分を含む補強鉄筋としてSDPフォーム内に定着する。外部足場を不要とし全ての作業が内側から実施できる。組立用部材を製作時にSDPフォームに組込んで搬入できるので施工性が向上するメリットもある。

実施工への適用に向け、工業会会員と橋梁メーカーで構成するWGを立ち上げ実用化の推進を図る。橋梁メーカーでは橋梁壁高欄の施工実績のある鋼橋及びPCメーカーの協力を得る方針。WGを施工業者と製品メーカーとの接点と位置付け、現場や技術上の課題について検討を進める。組立器具と組立方法等の施工マニュアル作成も進める。

【SDPフォームを用いた耐震補強工法の開発・実用化】

従来のRC巻き立てによる耐震補強に代る工法としての位置付けで、災害復旧・復興工事で既設橋脚の耐震補強工事が増加し急速施工が求められていることに着目したものを。PC鋼より線を橋脚などの躯体に巻き付け、躯体に設置したアンカーを用いてSDPフォームを外側に固定。SDPフォームと躯体の間に生じた空隙に無収縮モルタルを充填する補強工法。施工を簡略化すると共に薄肉軽量化のメリ

【SDPフォームを用いた耐震補強工法の開発・実用化】

従来のRC巻き立てによる耐震補強に代る工法としての位置付けで、災害復旧・復興工事で既設橋脚の耐震補強工事が増加し急速施工が求められていることに着目したものを。PC鋼より線を橋脚などの躯体に巻き付け、躯体に設置したアンカーを用いてSDPフォームを外側に固定。SDPフォームと躯体の間に生じた空隙に無収縮モルタルを充填する補強工法。施工を簡略化すると共に薄肉軽量化のメリ

●今期の活動計画

【SDPフォームの壁高欄の施工への適用】

薄型パネルSDPフォーム

ットを活かすことが出来る。

前期に実施した小型の梁試験体曲げ試験でせん断補強効果が確認できたことから、今期は柱試験体に対する静的正負交番荷重試験を実施し、耐震補強効果(靱性能)を確認する。より現実に近い耐震補強技術として施工方法を含めて検討を進める方針。実験は前期に引き続き、東京工業大学二羽研究室で11月頃公開で実施する予定。

【ステンレス鉄筋を使用した防風板の実用化】

実用化に向けたWGを工業会会員社のランデス、東京セメント工業、永井コンクリート工業の3社で立ち上げ、風洞実験。実用化に向けた活動を進める計画。

●SDPフォーム

SDPフォームは、ステンレス鉄筋を補強材に使用した高強度・高耐久性のプレキャスト埋設型枠水セメント比30%以下の高強度モルタルを使用してコンクリートの緻密化を図り、型枠表面からの劣化因子の侵入を抑制して構造物の耐久性を向上することができ、脱型作業が不要でコンクリート工事の省人化に寄与し、残材が出ないので環境負荷も小さい。

鉄筋に極細径(D4・D5・D6)のステンレスを使用して厚さ15〜20mm程度まで薄肉・軽量化を実現すると同時にRC方式による設計が可能というメリットもある。

女性土木技術者による講演

LIME JAPAN

社会基盤の超長寿命化を考える日本会議(LIME JAPAN)理事長＝阪田憲次氏)は10月17日、午後2時からスクワール麹町(東京都千代田区)で第9回啓発セミナー「確かな未来を〜女性土木技術者の役割〜」を開催する。

セミナーは第一部で大成建設の龍尊子氏が「とびだせ!ドボジョー!」鹿島建設の須田久美子氏が「女性土木技術者の働き方」橋梁工事およびトンネル工事現場を事例に」と題して講演する。

第二部では龍尊子氏、須田久美子氏、西村隆司氏(LIME JAPAN理事、日経BP社編集委員)の各氏をパネリストに迎え「女性土木技術者の役割について」をテーマにパネルディスカッションを行う。コーディネーターは齋藤宏保氏(LIME JAPAN副理事長、中部大学教授)。

参加申し込みは、LIME JAPANウェブサイトを(<http://kokuchese.com/event/index/219292/>)から。先着順で定員は50名。参加費はセミナー2000円、意見交換会1000円。

理想的な高耐久性埋設型枠
「SDPフォーム」の実用化推進と
PCa製品の新たな可能性を追求
新世代PCa工業会

会長 篠田 佳男

事務局 東京都墨田区両国4-38-1
日本コンクリート技術(株)内
TEL 03-5669-6653
FAX 03-3632-2970
URL www.new-pca.gr.jp